

# 関西医科大学 広報



友田学長(写真中央左)と野村教務部長(同中央右)が渡航し、大学や関連施設を視察しました(Queen Elizabeth University Hospital Glasgow前にて)

## 新たな学術交流協定締結に向けて グラスゴー大学(英)、テュービンゲン大学(独)を訪問

詳細は次号以降に掲載予定

Vol.34

### CONTENTS

巻頭： 本学の国際化に向けた取り組みについて	P.1	病院： 総合医療センター新本館竣工式・施設披露宴	P.21
大学： 若手研究者特集	P.6	附属看護専門学校： 戴帽式	P.23
大学： 研究医長・ 研究トークランチ責任者合同リトリート	P.11	学会主催情報・学会賞受賞情報	P.26

## 本学の国際化に向けた取り組みについて

国際交流センター長 西山 利正

昨年度に国際交流センター長に就任し、前国際交流センター長であった友田幸一学長のご指導のもと、センターを運営して参りました。多様化する国際交流事案に対して、国際交流センター管理運営委員会委員や国際交流センター事務局との連携を密にし、柔軟且つ迅速に対応することをモットーに、日々取り組んでおります。

現在本学には、中国、ベトナム、ラオス、モンゴル、インド、インドネシア、ソロモン諸島からの留学生が大学院に在籍し、学位取得に向けて日々研究活動に勤しみ、充実した毎日を過ごしておりますが、修学支援や生活支援の面で国際交流センターの重要性を切に感じております。これまで、留学生と本学学生の交流推進を目的とした「KMU International Café」や、他機関奨学金獲得を目指した日本語の面接練習・模擬面接、また、留学生住宅総合補償を活用した関西医科大学住宅機関補償制度の運用などの支援体制を構築しておりますが、今後もこれらの支援体制を充実させ、新しい企画を立案し運営していく予定です。

昨年度は、山下敏夫理事長をはじめ友田学長、伊藤誠

二副学長のご尽力により、ベトナム・ハノイ医科大学との学術交流協定を締結することができました。今年度は、友田学長、野村昌作教務部長、国際交流センター担当職員1名が英国・グラスゴー大学とドイツ・チュービンゲン大学に赴き、学術交流協定締結に向けた調整を図っております。また、タイ・マヒドン大学やオーストラリアの大学など、海外の他大学・機関との協定締結を視野に入れており、新たな国外臨床実習施設の開拓や、本学のさらなる国際化に向けた活動を積極的且つ着実に進めております。

今後、国際交流センターでは、イントラネット内に開設したHPを発展させ、海外在住で本学への留学を希望する外国人への情報発信用HP(英語)を開設し、世界中から優秀な外国人留学生の獲得を目指す予定です。

現在、国際交流センターのみならず大学全体で国際交流を推し進めておりますが、将来、世界ランキングに入る関西医科大学へと成長するためにも、皆様方の更なるご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

## 留学生歓迎会を開催

6月7日(火)午後5時30分から枚方学舎4階カフェテリアにおいて「留学生歓迎会」が行われました。友田幸一学長や国際交流センター西山利正センター長のほか、参加した教職員、留学生らで、今年度から本学で学ぶこととなった4名の留学生を迎え入れました。

友田学長による歓迎の挨拶の後、留学生が自己紹介。各々の出身地や余暇の過ごし方、日本で学ぶ目的などについて、日本語を交えてスピーチしました。また、昨年11月本学と学術交流協定を締結したハノイ医科大学(ベトナム)からの留学生・Bui Van Danさん(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)は、国際交流センターの諸方面でのサポートに対する感謝の言葉を述べました。

リラックスした雰囲気の中、出席者が交流し、互いの理解を深めました。



歓迎会は終始なごやかな雰囲気で行われました

## 国外臨床実習の成果報告会

7月1日(金)午後5時30分から枚方学舎加多乃講堂において「国外臨床実習の成果報告会」が行われ、1学年学生と国外臨床実習への参加を検討している2学年以上の学生が参加しました。この日はマレーシア国立循環器病センター、レーバークーゼン総合病院(ドイツ)、トロント小児病院(カナダ)、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)、バーモント大学(同)で臨床実習を終えた6学年学生9名が、現地での暮らしや受け入れ体制、実習の内容について英語でプレゼンテーションしました。いずれの報告者も語学面や体力面での苦労に触れつつ、充実した設備のもと現地の人々に助けられ、また

とない経験ができた振り返り、報告会に参加した学生に国外臨床実習への参加を勧めていました。



報告者はブラッシュアップした英語でそれぞれの実習先について熱心に語りました

## 呼吸器外科学講座教授に就任して

呼吸器外科学講座 教授 村川 知弘



る思いです。

昨年春に附属枚方病院胸部心臓血管外科学講座呼吸器外科担当診療教授として東京から移動してきて、当初は戸惑うところもありましたが、1年が経過し、ようやく北河内の風土にも慣れてきたところです。私の育った山口県防府市には、佐波川という川が市内を流れており、その川辺で育ちました。附属病院や学舎からみえる淀川の風景は故郷のそれにどこかに似ており、懐かしさを感じます。

呼吸器外科医の担当する領域は心臓・食道を除く胸郭内臓器の手術であり、特に肺癌手術の担当が重要な役割となります。近年の高齢化社会を背景として肺癌患者さんの高齢化には顕著なものがあります。昨年附属枚方病院に赴任後、直ぐに、完全胸腔鏡下手術を当院へ導入し手術の低侵襲化に貢献できたと思います。手術の低侵襲化により、これまで以上に多くの方に手術治療という選択を示すことができると考えています。また、胸腔鏡手術の副次的な効果として、手術室にいる医療スタッフや医学生がモニター上に写る画面を共有できるという利

胸部心臓血管外科学講座より派生する形でこのたび新設されました呼吸器外科学講座の主任教授を平成28年5月1日付けで拝命いたしました。新設講座での初代教授ということになり、新しい職責の重さに身の引き締まる

点があります。教育にも役立てればと思います。

また局所進行肺癌が多いのも印象に残りました。この1年間で隣接臓器合併切除や気管支・血管形成が必要であった例も少なからずあり、無事対応できて来たと思います。このような進行例も引き続き対応していきたいと思えます。

他の臨床医学分野と同様ですが、呼吸器外科分野も診断から治療まで、他分野の諸先生やコメディカルスタッフのご協力が無くては成り立ちません。また教育や研究も同様であります。新しい講座が発展・成長できるように頑張りたいと存じます。これからも引き続き御指導・御協力の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 略歴

平成4年3月	東京大学医学部医学科卒業
平成4年6月	東京大学医学部附属病院外科研修医
平成5年12月	国保旭中央病院外科医員
平成7年12月	東京大学医学部附属病院胸部外科医員
平成9年1月	日本赤十字社医療センター心臓血管外科医員
平成10年1月	東京大学医学部附属病院胸部外科医員
平成14年3月	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻修了
平成14年4月	東京大学医学部附属病院呼吸器外科助手
平成15年6月	米国コロラド大学胸部外科リサーチフェロー
平成19年4月	東京大学医学部附属病院呼吸器外科助教
平成22年2月	東京大学医学部附属病院呼吸器外科講師
平成27年4月	関西医科大学胸部心臓血管外科学講座呼吸器外科担当診療教授
平成28年5月	関西医科大学呼吸器外科学講座主任教授

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座担当教授に就任して

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 岩井 大



では、多くの方々のご支援を頂戴致しました。厚く御礼申し上げます。

私は昭和58年に関西医科大学を卒業し、当時の耳鼻咽喉科講座(熊澤教授・山下助教授、当時)に入局致しました。入局2年目には大学院生となり、両先生のご推薦にて当時の病理学第一講座(池原教授・稲葉助教授)でお世話になりました。私の臨床と研究のスタイルは、この時代に固まったように存じます。以来、マウスを用いた甲状腺移植・骨髄移植・自己免疫性難聴・老人性難聴の基礎研究や、耳下腺・甲状腺・口腔・咽喉頭腫瘍を含めた頭頸部手術と臨床研究を、のちの山下教授(現理事長)、つぎの友田教授(現学長)にご指導を仰ぎながら続けて参りました。また私は、総合医療センター(旧滝井病院)に最近まで10年間在籍し、ここに育てて頂きました。

かつて「耳鼻咽喉科」と言われた私どもの専門分野は、人口高齢化による頭頸部腫瘍(癌)症例の急増により、「耳

平成28年6月1日付けで、関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の主任教授を拝命致しました岩井でございます。大変光栄に存じますとともに、その重責に身の引き締まる思いでございます。また、ここに到るまでには、多くの方々のご支援を頂戴致しました。厚く御礼申し上げます。

鼻咽喉科・頭頸部外科」と呼ばれるようになりました。さらにこの分野は、人口高齢化による老人性難聴の増加や、スギ花粉症・免疫アレルギー性疾患の蔓延などの疾患比率の変遷のため、古くて新しい、いよいよ目の離せない状況にあります。時代に鑑み、かつ、私の専門性も溶かし込み、教室を発展させて参りたいと存じます。また、忙しく、遅くまで働く教室員の生活の質(QOL)に目を向け、仕事効率と生産性を改善して参りたいと存じます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、色々な局面で他分野の疾患と関係致します。他の教室の先生方、地域の先生方に可愛がられ、また、学生や研修医が入局したくなるような、一層魅力ある教室にできればと存じます。どうぞ皆様、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 略歴

昭和58年3月	関西医科大学卒業
昭和63年5月	関西医科大学大学院医学研究科博士課程修了
昭和63年6月	米国州立テキサス大学留学
平成元年6月	米国州立南フロリダ大学留学
平成3年7月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座助手
平成9年4月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座講師
平成17年11月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座定員外助教
平成23年4月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座准教授
平成28年6月	関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座主任教授

# 平成27年度事業報告

本学の27年度事業報告がとりまとめられました。主な内容は以下の通りです。今年度は、KMULAS運用によるアクティブラーニングの積極的な展開、医師国家試験対策の強化、総合医療センターの北館・南館改修などに取り組み、さらなる教育・研究・診療の充実を目指します。

## 教育

- 医学部** 医師国家試験対策の強化  
ペーパー化と双方向授業の推進  
ハノイ医科大学との国際交流協定締結
- 大学院** 専攻系の再編成  
新カリキュラムの構築

## 法人

「附属滝井病院リニューアル事業計画」の推進  
看護学部設置準備

## 研究

臨床研究支援センターの設立  
研究トークランチ、研究医長会議の継続  
外部研究資金獲得の支援強化  
「健康沿線トークカフェ」の開催

## 診療

- 枚方病院 (附属病院)** センター化構想の実現  
ヒト型ロボット「ペッパー」の導入
- 滝井病院 (総合医療センター)** 新本館竣工  
電子カルテへの移行準備
- 香里病院** DPC病院へ移行決定  
訪問介護ステーションの開設決定

# 平成27年度・28年度の内部監査

内部監査室長 稲垣 千代子

平成27年度内部監査を下記の項目で実施し、平成28年度内部監査計画を理事長に提出して承認されました。

本年度の内部監査も本学の業務が合法的且つ合理的・効率的に遂行されることを目指して評価し、本学の発展に資する助言ができるよう努めます。

### 1. 平成27年度内部監査

以下の項目について点検・調査し、問題点の改善に向けて助言しました。

#### ■年次監査

- 「公的研究費の管理状況(平成26年度対象)」
- 「公的研究費管理のモニタリング(平成27年度対象)」
- 「医療安全活動(医療事故防止への取組み)」
- 「情報システム監査」

### 2. 平成28年度内部監査計画(年次監査)

- 項目：競争的資金の管理状況(平成27年度対象)  
対象部門：大学事務部研究課及び関連部門  
日程：平成28年7月～8月
- 項目：医学教育システム  
対象部門：医学部  
日程：平成28年9月～10月
- 項目：事務組織(業務分担と継続性)  
対象部門：法人事務局・他事務部門  
日程：平成28年11月～12月
- 項目：競争的資金管理のモニタリング(平成28年度対象)  
対象部門：大学事務部研究課及び関連部門  
日程：平成29年1月～2月

# 医療安全管理センター 平成27年度インシデント報告集計

医療安全管理センターでは、附属3病院の平成27年度インシデント報告を集計しました。総報告数は、9,314件で患者への影響レベル別にした件数は、下の表のとおりです。

総報告数並びに主な発生要因の割合については前年度と大きな変化はありませんでした。

平成27年10月から通常の治療の結果、病気等を原因として死亡された場合を含めて、院内での死亡事例については全件インシデント報告を行うこととなりました。ひきつづきご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

### 患者への影響レベル別インシデント報告数

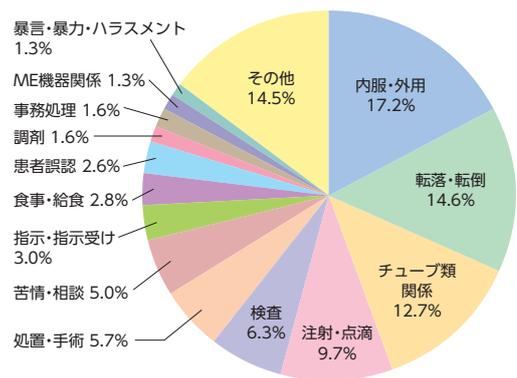
事故が発生する前に気がついた	1,228件
事故は発生したが患者への実害はなかった	4,108件
観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	2,321件
処置や治療を要した	1,657件
総計	9,314件

「内服・外用」「転倒・転落」「チューブ関係」「注射・点滴」で全体の約55%

インシデント内容は、(1)内服・外用、(2)転倒・転落、(3)チューブ類、(4)注射・点滴に関するものが多く、これらで全体の約55%を占めています。なお、上位の4項目とも前年度と大きな変化はありません。

当センターでは、今後も附属3病院の事例検討を通じて、情報や対策の共有を図り、大学全体の医療安全向上を図ります。

### 発生の主な問題



## 施設設備整備拡充資金の募集

関西医科大学では平成28年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 募集要項

1.募集対象	本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
2.募集金額	1口 100万円 1口未満でも申し受けます。
3.お問い合わせ先	関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL:072-804-2146(直通) FAX:072-804-2344

平成28年4月1日から平成28年6月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のウェブサイトでの公開は控えさせていただきます。

## 枚方市、岸和田市に骨伝導集音器を寄贈しました

本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座が民間企業との産学連携により開発した骨伝導集音器を、枚方市と岸和田市に寄贈しました。「骨伝導」とは、骨を介して聴覚神経に音の振動を伝える仕組みで、鼓膜への負担が小さいほか、騒音下でも音声を伝達することができます。枚方

市役所および岸和田市役所の窓口に設置し、職員と加齢などで聴力が弱った方とのコミュニケーションに活用していただく予定です。

また、この度の寄贈を伝える記事が、読売新聞(5月25日朝刊)、産経新聞(6月23日朝刊)に掲載されました。

## 学園の癒やしスポットが続々と誕生

5月中旬、枚方学舎加多乃講堂壁面(附属病院側南面)のバラ園が見ごろを迎えました。友田幸一学長の発案で昨年11月に設けられたもので、この春初めて花を咲かせました。色とりどりのバラを、学生や教職員ほか附属病院の患者さんや本学を訪れた人々が、足を止めて眺め

る姿が見受けられます。

また今年3月には、山下敏夫理事長の発案で枚方学舎中庭に雌雄一対の鹿の像が設置されました。シンボルツリーの木陰で仲良く来訪者を出迎えています。ぜひ一度足を運んでみてください。



## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (オレンジは記事掲載)

法人	4月23日	総合医療センター新本館竣工式・施設見学・披露宴	 <p>臨床研究等倫理講習会</p>
	4月24日	総合医療センター新本館内覧会(関係者・市民向け)	
大学	4月2日	Student Doctor認証式	 <p>1学年シミュレーション実習</p>
	4月11日	大学院入学式	
	4月14・15日	1学年合宿研修	
	4月19日	研究トークランチ	
	5月15日	第86回解剖体追悼法要・平成28年度遺骨返還式	
	5月26日	臨床研究等倫理講習会(大学院総合講義)	
	6月1日～	1学年シミュレーション実習	
	6月4日	白菊会総会	
	6月7日	留学生歓迎会	
	6月11日・12日	研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリート	
附属病院	6月18日	新任教員教育ワークショップ	 <p>研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリート</p>
	6月24日	公的研究費に係るコンプライアンス説明会	
	7月1日	国外臨床実習の成果報告会	
	4月1日	名称変更	
	4月16日	熊本地震発生に伴うDMAT派遣	
総合医療センター	5月11日	ふれあい看護体験	 <p>総合医療センター新本館内覧会</p>
	4月16日	熊本地震発生に伴うDMAT派遣	
	4月23日	新本館竣工式・施設見学・披露宴	
	4月24日	新本館内覧会(関係者・市民向け)	
	5月1日	名称変更	
香里病院	5月6日	新本館オープン・外来診療開始	 <p>看護専門学校防犯訓練</p>
	4月2日	市民公開講座	
附属看護専門学校	7月2日	七夕コンサート	
	5月11日	戴帽式	
卒後臨床研修センター	5月18日	防犯訓練	
	5月7日	初期臨床研修医合同説明会	
	5月14日	看護職臨地実習指導者研修	
	5月15日	マイナビレジフェス大阪	
	6月4日	専門研修合同説明会	
	6月19日	e-レジフェア2016	

## 形成外科学講座 尾川武史研究員インタビュー

本学では、「研究医養成コース」設置や「研究トークランチ」の定期開催など、研究力の向上に取り組んでいます。そこで今回は、医科大学における「研究」に焦点を当てて、形成外科学講座尾川武史研究員にお話をうかがいました。尾川研究員は、昨年11月に行われた日本医療研究開発機構 (AMED) 主催の「第1回AMEDがん若手研究者ワークショップ」に参加。プログラムの一つとして行われた「模擬評価委員会」\*において、所属したチームがベストレフェリー賞を受賞しました。尾川研究員を含むベストレフェリー賞受賞グループは、本年2月の「第10回日米癌合同会議」にも参加しています。

本インタビューでは、ワークショップおよび合同会議に参加しての感想や日ごろの研究などについてお聞きしました。

\*参加者が、AMEDの評価委員として架空の研究課題を審査し、助成を行うかどうかを判断。その判定の妥当性や結論を導くまでの過程について評価を受けるグループワーク。

### 今回、AMEDがん若手研究者ワークショップ、日米癌合同会議に参加されての感想をお聞かせください。

がんの専門家ではないため、ワークショップや学会では、気後れする場面もありました。しかし、最先端の研究について知り、またそうした研究に従事する研究者と交流する機会を持てたことは、大変貴重な経験だったと思います。それに、ワークショップに参加した同年代の研究者と終始活発な議論を交わしたことも、大きな刺激になりました。

ただ、日米癌合同会議に参加してみて、語学力の必要性を痛感しました。研究は一人で完結するものではありません。他の研究者や研究機関と国や地域を越えて円滑なコミュニケーションがとれることは極めて重要です。医学生のみなさんには、学生時代から語学の習得に熱心に取り組むことをおすすめしたいですね。

### 研究の面白さややりがい、魅力について教えてください。

自分のアイデアをどんどん試して一喜一憂できるところが、臨床とは違う面白さだと思います。毎日がドキドキの連続です。実験はうまくいかないことの



が多いですが、失敗を恐れず、うまくいかなかったときは原因を追究するとともに、失敗した記憶を心に留めておきます。すると、ふとした時にその解決策が見つかったり、失敗だと思っていたデータが別の問題を解く重要なカギになったりするものです。そうして失敗を糧にステップアップしていけることも、研究の魅力と言えるかもしれません。

方が多いですが、失敗を恐れず、うまくいかなかったときは原因を追究するとともに、失敗した記憶を心に留めておきます。すると、ふとした時にその解決策が見つかったり、失敗だと思っていたデータが別の問題を解く重要なカギになったりするものです。そうして失敗を糧にステップアップしていけることも、研究の魅力と言えるかもしれません。



### 「研究」を志す学生に向けて、メッセージをお願いします。

何事も「やってみよう」という柔軟な姿勢で取り組んでみてください。研究活動においては、課せられるテーマが自分の興味・関心と合致しないことも多々あります。しかし、取り組むほどに興味が高まるのが研究(の面白いところ)です。だからこそ、まずは何事も「やってみる」という気概を持って臨むことが大切だと思います。

幸い、関西医科大学では多くの興味深い研究が進められており、設備も充実しています。また、親身に相談に乗ってくれる指導者がおり、毎月「研究トークランチ」が開催されるなど、研究活動には大変恵まれた環境です。ぜひ、広い視野をもって存分に学んでください。

### 形成外科学講座楠本健司教授のコメント

今回尾川先生が参加したワークショップを主催したAMEDは研究資金の拠出元として、今後ますます無視できない存在となってきます。それだけに今回、尾川先生がAMEDの研究課題審査の過程を疑似体験し、審査員の視点を学べたことは、研究を続けていく上で大変意味があると思います。

また、日々の研究においても、他の研究者の視点や意見を取り入れながら進めるということは非常に重要です。この意味でも、今回のワークショップを通して尾川先生が審査員の立場で講評するという経験をし、またそれが「ベストレフェリー賞」という形で評価を受けたこ

とについては、すばらしいと感じています。

一方で、臨床の現場においても、臨床研究を組み立てる際や疾患の構造を正確に理解しようと思ったときに、研究から得られる知見は大変有用です。臨床医を志す医学生にも、研究を通して基盤となる知識や医学的思考を養うことの重要性を理解してもらいたいと考えています。



## Student Doctor 認証式

4月2日(土)午後2時から枚方学舎加多乃講堂において「Student Doctor 認証式」が行われました。5学年に進級した学生たちに友田幸一学長から、医療機関での診療参加型臨床実習の受講を認める認定証が授与されました。

友田学長および臨席した野村昌作教務部長、附属病院澤田敏病院長からは、患者さんに寄り添うこと、努力を怠らないこと、常に医師としてのプロ意識をもって過ごすことなど、実習に臨むにあたってのアドバイスが与えられました。



この日はじめて白衣を着用した学生たちは、一段と引き締まった表情で式典に臨みました

## 医学部1学年合宿研修



1学年学生と友田学長、野村教務部長ら教職員

1学年の合宿研修を、ウェスティンホテル淡路および淡路夢舞台国際会議場において4月14日(木)・15日(金)1泊2日の日程で実施しました。

接遇講習のほか、グループ別にディスカッションを行い、翌日まとめた内容を発表しました。ディスカッションは「医師になるための能動的な学習態度を身につけるには」を含む6つのテーマをあらかじめ提示し、その中からグループが適当なものを選んで討論する方式としました。発表では寸劇を用いるなど各グループ創意工夫に溢れるものとなりました。

医学生たちは、ディスカッションやレクリエーション活動を通して、教職員や友人とのコミュニケーションが一層図れ、大きな成果を得ることができました。

## 入試相談会参加予定

8月以降に参加予定の入試相談会の日時について、お知らせします。

開催地	開催日時	時間	相談会名	会場
広島	8月8日(月)	12:00~	私立医科系大学進学相談会	広島ガーデンパレス
福岡	8月12日(金)	12:00~	私立医科系大学進学相談会	福岡ファッションビル
愛知	8月16日(火)	12:00~	私立医科系大学進学相談会	ミッドランドホール
岡山	8月27日(土)	11:30~	一般社団法人 日本私立医科大学協会加盟大学 平成28年度合同入試説明会・相談会	川崎医科大学
愛知	9月10日(土)	11:30~	一般社団法人 日本私立医科大学協会加盟大学 平成28年度合同入試説明会・相談会	藤田保健衛生大学
大阪	9月19日(月・祝)	10:30~	医学部進学フォーラム	ハービスホール

# 平成29年度 医学部入学試験概要

## 【推薦入学試験】

募集人員	10名	
募集区分	特別枠のみ、専願	
願書受付期間	平成28年11月1日(火)～11月11日(金)	
出願要件	①高等学校卒業見込みの者で全体および6教科の評定平均値が共に4.0以上 ②日常の学生生活から心身共に健全で、人物・学力に優れていると判断し、学校長が推薦する者	
選抜方法	第1次試験	第2次試験
	出願書類をもとに書類選考 〈結果通知日〉 平成28年11月22日(火)	第1次試験の合格者に実施 〈試験日〉平成28年11月27日(日) 〈内 容〉小論文、適性検査(数理的問題、英文問題含む)、面接(集団・個別) 〈場 所〉枚方学舎 〈合格発表日〉平成28年12月2日(金)

## 【センター試験利用入学試験】

募集人員	15名	
募集区分	一般枠	
願書受付期間	平成28年12月19日(月)～平成29年1月13日(金)	
出願要件	①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者 ②高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定の合格者を含む) ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者	
選抜方法	第1次試験	第2次試験
	〈試験日〉大学入試センター試験日 平成29年1月14日(土)～1月15日(日) 〈試験科目〉 国語(近代以降の文章のみ)/数学(「数学I・数学A」「数学II・数学B」の2科目必須)/理科(「物理」「化学」「生物」から2科目選択)/英語(リスニング含む) 〈合格発表日〉平成29年2月8日(水)	第1次試験の合格者に実施 〈試験日〉平成29年2月12日(日) 〈内 容〉面接 〈場 所〉枚方学舎 〈合格発表日〉平成29年2月16日(木)

## 【一般入学試験・前期】

募集人員	85名	
募集区分	一般枠※大阪府地域枠含む ※若干名、特別枠を募集する場合がある	
願書受付期間	平成28年12月19日(月)～平成29年1月18日(水)	
出願要件	①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者 ②高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定の合格者を含む) ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者	
選抜方法	第1次試験	第2次試験
	〈試験日〉平成29年1月28日(土) 〈学力検査内容〉 数学(「数学I」、「数学II」、「数学III」、「数学A」、「数学B」)/外国語(「コミュニケーション英語I」、「コミュニケーション英語II」、「コミュニケーション英語III」、「英語表現I」、「英語表現II」)/理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から2科目選択)/小論文 〈場 所〉 インテックス大阪(大阪)、TOC五反田メッセ(東京)、TKPガーデンシティ名古屋新幹線口(名古屋)、南近代ビル(福岡) 〈合格発表日〉平成29年2月8日(水)	第1次試験の合格者に実施 〈試験日〉平成29年2月12日(日) 〈内 容〉面接 〈場 所〉枚方学舎 〈合格発表日〉平成29年2月16日(木)

## 【一般入学試験・後期】

募集人員	7名	
募集区分	一般枠※大阪府地域枠含む	
願書受付期間	平成29年2月6日(月)～平成29年2月23日(木)	
出願要件	一般入学試験前期に同じ	
選抜方法	第1次試験	第2次試験
	〈試験日〉平成29年3月4日(土) 〈学力検査内容〉一般入試・前期に同じ 〈場 所〉枚方学舎 〈合格発表日〉平成29年3月10日(金)	第1次試験の合格者に実施 〈試験日〉平成29年3月14日(火) 〈内 容〉面接 〈場 所〉枚方学舎 〈合格発表日〉平成29年3月17日(金)

詳細は、平成29年度学生募集要項をご確認ください。

## 平成28年度大学院入学式

4月11日(月)午後3時から枚方学舎4階中会議室において「平成28年度大学院入学式」が行われ、新入生38名のうち33名と、友田幸一学長、伊藤誠二副学長ほか、教職員が出席しました。友田学長は告辞で「“関西医大ブランド”として、世界に発信できるような研究成果を残してほしい」と激励。続いて挨拶に立った中邨智之大学院教務部長は、選択必修コースの導入を目玉とした大学院のカリキュラム改定に言及し、「新しい(大学院の)

システムが機能するかどうかは、第一期生の皆さんにかかっている。一緒に新しい大学院を作っていくましよう」と呼びかけました。



学位の重要性について、自身の経験をもとに語る友田学長

## 大学院の新カリキュラムが始まりました

5月30日(月)午後5時15分から、大学院選択必修コース(細胞の増殖と分化)の第1回コースミーティングが開催されました。選択必修コースは、本年度の大学院機構改革に伴い新たに設けられたもので、コースミーティング(年6回以上)とリトリート(合宿)から構成されます。大学院生は、「細胞の増殖と分化」、「体の高次機能」、「形態形成と老化」、「社会と健康」いずれかのグループに所属し、コースミーティングとリトリートに参加します。

今回のコースミーティングでは、「細胞の増殖と分化」グループオーガナイザーの病理学第一講座上野博夫教授から今後のスケジュールが説明され、続いて東京大学医科学研究所細胞療法分野／幹細胞シグナル制御分野北村俊

雄教授の講義「エピジェネティクス異常と骨髄異形成症候群発症の関係性」が実施されました。(大学院講座723講)

また、6月13日(月)には「形態形成と老化」グループ、15日(水)には「社会と健康」グループ、16日(木)には「体の高次機能」グループそれぞれの第1回コースミーティングが行われました。



コースミーティング後半で講演した東京大学医科学研究所北村教授

## 平成29年度大学院医学研究科学生募集要項(博士課程)

外国語試験の免除制度を導入、外国人受験者対象に書類審査を実施

平成29年度入学試験から、新たな取り組みとして、一般入試、社会人入試では、外国語(英語)試験免除制度を導入、外国人入試は書類審査を実施することになりました。

■募集人員 医科学専攻 計50名(前後期の合計)

■試験概要

	前期〈一般、社会人〉	前期〈外国人〉	後期〈一般、社会人〉
願書受付期間	平成28年7月27日(水)～ 平成28年8月17日(水)	平成28年7月27日(水)～ 平成28年9月21日(水)	平成29年1月4日(水)～ 平成29年1月25日(水)
試験期日	平成28年9月3日(土)	書類審査	平成29年2月4日(土)
合格発表	平成28年10月12日(水)正午		平成29年2月16日(木)正午

■選抜方法 〈一般入試、社会人入試〉 入学者の選考は、学力試験(外国語試験<sup>\*</sup>、研究分野別試験)を総合して行います。

※次のいずれかの条件を満たしている場合は、外国語(英語)試験の受験を免除します。

なお、出願時に語学力を証明する書類の提出が必要です。

・TOEFL iBT 80点以上 ・TOEIC 750点以上 ・IELTS 6.0以上

〈外国人入試〉 書類審査を実施します。

入学試験に関する詳細は、本学ホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/admissions/index.html>)をご覧ください。

## 第86回解剖体追悼法要・平成28年度遺骨返還式

5月15日(日)午前10時から、京都市東山区の臨済宗建仁寺派大本山・建仁寺において「第86回解剖体追悼法要」が営まれました。篤志により医学の発展に寄与するため献体くださった故人のご遺族や白菊会会員、友田幸一学長をはじめ教職員、3学年学生など関係者319名が参列しました。施主代表として友田学長から、故人の尊志と遺徳をたたえる言葉が述べられました。

追悼法要後の午前11時からは同所で「遺骨返還式」を挙げる。11柱の遺骨がそれぞれのご遺族へ返還され、あわせて文部科学大臣からの感謝状が贈呈されました。

また、当日は同寺塔頭・正伝永源院にある本学慰霊碑を、多くの参列者が訪れていました。



追悼の辞を述べる友田学長

## 第35回関西医大白菊会総会を開催

6月4日(土)午後1時から、枚方学舎加多乃講堂を主会場(第1講義室へ同時中継)として「第35回関西医大白菊会総会」が、会員186名のほか、友田幸一学長、野村昌作教務部長をはじめ解剖学、病理学等関係講座教職員の出席を得て開催されました。

第1部では黙祷の後、混声合唱団コールクライスのリードに従い「白菊会の歌」を斉唱。友田学長と白菊会

藤澤直子会長の挨拶、役員及び本学関係者の紹介に続いての議題審議では、行事報告・会計報告、会計監査報告があり、いずれも承認されました。また、卒寿を迎えた会員1名にお祝いの品が贈られました。

第2部「堂迫千草オンステージ」では、昨年引き続き白菊会堂迫副会長が歌唱を披露したほか、全員で声を合わせて歌う場面も見られました。

## 友田学長(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 前教授)の最終講義が行われました

6月24日(金)午前9時から枚方学舎2階第4講義室において、友田幸一学長の最終講義が行われました。本学では近年、教授退任時に最終講義を実施しない傾向が続いており、今回2015年4月の学長就任に伴い耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授を退任した友田学長が、本学では数年ぶりとなる最終講義を実施することとなりました。医学部4学年学生と教職員を対象に行われた本講義では、「ナビゲーション手術から手術教育へ」をテーマに、ナビゲーションシステムが開発された経緯から後進育成

への応用まで、動画などを用いてわかりやすく解説。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域へのロボット手術導入の可能性についても紹介しました。

講義終了後は、学生および教職員の代表から花束が手渡され、友田学長からは聴講した学生に著書が贈呈されました。



学長から贈呈された著書「耳鼻咽喉科・頭頸部外科ナビゲーション手術 Vol.1、2」



## 研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリートを初開催

6月11日(土)・12(日)の2日間、神戸市北区のスペースアルファ神戸において「研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリート」が行われ、友田幸一学長はじめ、伊藤誠二副学長、附属生命医学研究所木梨達雄所長と全講座の研究医長および研究トークランチ責任者ら総勢43名が出席しました。

研究医長とは、平成26年度臨床系講座を対象に導入された制度で、研究体制の充実および活性化を目指した諸活動の中心となるリーダー(=研究医長)を講座ごとに任命するというもの。また、研究トークランチ責任者は、平成25年度から基礎系講座間の連携強化を目的に定期開催している「研究トークランチ」において講座代表を務めています。

今回、臨床系講座、基礎・社会系講座、教養系教室それぞれでの取り組み実績を踏まえ、さらに臨床と基礎の垣根を越えての交流、および意見交換の場を設けることを目的に、研究医長と研究トークランチ責任者を集めて合同のリトリートを開催しました。会場では、各講座の現状と提供可能なリソース、必要としている情報などをまとめたポスター発表に加え、「がん・その他生体組織利用」、「免疫」、「次世代シーケンサー」、「イメージング・疾患モデル動物」の4グループにわかれ、テーマに基づいたグループワークを行いました。グループ発表では大学全体の解決すべき現在の課題の列挙と共同研究の申請に向けたマッチングの可能性を活発に討議して、有意義なリトリートとなりました。

### 研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリート世話人・参加者一覧

#### 【世話人】

(講座名・職名は参加当時)

	職 名	氏 名
ディレクター	学長	友田 幸一
サブディレクター	副学長／研究医長議長・研究トークランチ世話人	伊藤 誠二
サブディレクター	研究トークランチ世話人／附属生命医学研究所・所長	木梨 達雄

#### 【参加者(研究医長)】22名

講座名	職名	氏名
内科学第一	准教授	伊藤 量基
内科学第二	講 師	塚口 裕康
内科学第三	講 師	福井 寿朗(代理)
心療内科学	講 師	阿部 哲也
神経内科学	講 師	中村 正孝(代理)
精神神経科学	講 師	西田 圭一郎(代理)
小児科学	准教授	辻 章志
外科学	准教授	海堀 昌樹
心臓血管外科学	講 師	岡田 隆之
呼吸器外科学	助 教	齊藤 朋人
脳神経外科学	助 教	岩田 亮一(代理)
整形外科学	助 教	植田 成実(代理)
形成外科学	講 師	森本 尚樹
皮膚科学	准教授	神戸 直智
腎泌尿器外科学	准教授	木下 秀文
眼科学	准教授	山田 晴彦
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	講 師	神田 晃
放射線科学	准教授	中村 聡明
産科学・婦人科学	大学院生	村田 紘未(代理)
麻酔科学	准教授	廣田 喜一
病態検査学	講 師	梶田 緑
救急医学	講 師	早川 航一(代理)

#### 【参加者(研究トークランチ責任者)】16名

講座・部門名	職名	氏名
解剖学第一	講 師	田中 進
解剖学第二	講 師	丸山 正人
生理学第一	講 師	林 美樹夫
生理学第二	助 教	則武 厚
医化学	講 師	片野 泰代
薬理学	准教授	赤間 智也
病理学第一	准教授	熊野 恵城
病理学第二	講 師	義澤 克彦
微生物学	助 教	上野 孝治
衛生学	講 師	藤岡 龍哉
公衆衛生学	助 教	下埜 敬紀(代理)
法医学	准教授	橋谷田 真樹
分子遺伝学部門*	講 師	植田 祥啓
生体情報部門*	准教授	松田 達志
モデル動物部門*	准教授	李 成一
神経機能部門*	研究員	松尾 朋彦

\*附属生命医学研究所

#### 【参加者(教養)】2名

生物学	教授	平野 伸二
物理学	教授	影島 賢巳

## COIプログラムに本学も参加 医学領域から研究の実現をサポート

本学は、文部科学省と国立研究開発法人科学技術振興機構が推進しているセンター・オブ・イノベーションプログラムのひとつ、「ビジョン2大阪大学COI拠点 人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点」の、中核機関参画機関のひとつ。本年度は、ビジョン2傘下で進行

中の課題「tDCS(経頭蓋直流刺激)による活性化」について、精神神経科学講座西田圭一郎講師をリーダーとするグループが参加することとなりました。今後、西田講師を中心とした研究グループは、臨床試験の実施やデータの収集・分析に携わる予定です。

文部科学省・日本学術振興会関係

平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)	交付内定額(合計)
新学術領域研究	1	2,300,000	690,000	2,990,000
基盤研究(A)	2	24,200,000	7,260,000	31,460,000
基盤研究(B)	5	26,100,000	7,830,000	33,930,000
研究活動スタート支援	1	1,000,000	300,000	1,300,000
合 計	9	53,600,000	16,080,000	69,680,000

(単位：円)

平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)	交付内定額(合計)
基盤研究(C)	61	69,400,000	20,820,000	90,220,000
若手研究(B)	24	27,700,000	8,310,000	36,010,000
挑戦の萌芽研究	10	12,800,000	3,840,000	16,640,000
合 計	95	109,900,000	32,970,000	142,870,000

(単位：円)

平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)	交付内定額(合計)
基盤研究(B)	2	5,800,000	1,740,000	7,540,000
合 計	2	5,800,000	1,740,000	7,540,000

(単位：円)

平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)交付内定者(代表者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究(研究領域提案型)継続	附属生命医学研究所 生体情報部門	松田 達志	准教授	mTORC1シグナルを介した胸腺環境維持機構の解明	2,300,000	690,000
基盤研究(A)継続	病理学第一	上野 博夫	教 授	舌・食道扁平上皮がん克服に向けた幹細胞階層構造解析と治療標的分子の探索	10,800,000	3,240,000
基盤研究(A)新規	附属生命医学研究所 神経機能部門	小早川 高	学長特命 准教授	恐怖行動を誘発する嗅覚受容体遺伝子の解明	13,400,000	4,020,000
基盤研究(B)継続	生理学第二	中村 加枝	教 授	ストレスにより認知過程が変容するメカニズムの探求 —分界条床核の役割	2,800,000	840,000
	生理学第二	磯田 昌岐	准教授	自己と他者の報酬情報の脳内処理機構の解明	4,400,000	1,320,000
基盤研究(B)新規	医化学	伊藤 誠二	教 授	痒みと神経障害性搔痒の中枢性感作機構と脊髄後角の神経ネットワークに関する研究	6,100,000	1,830,000
	生理学第一	小原 圭吾	講 師	海馬新CA2領域の回路基盤と社会性記憶のメカニズムの解明	7,800,000	2,340,000
	薬理学	中邨 智之	教 授	弾性線維の形成と再生の分子機構	5,000,000	1,500,000
研究活動スタート支援 継続	法医学	松本 智寛	講 師	合成カンナビノイドの体内動態及び体内分布の解明	1,000,000	300,000

(単位：円)

## 平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	放射線科学	狩谷 秀治	准教授	大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果の医療利用：血栓溶解効果での評価	1,000,000	300,000
	大学情報センター	渡辺 淳	准教授	日本語自然文で記述された診療記録解析のための言語処理アルゴリズムの構築と評価	400,000	120,000
	物理学	影島 賢巳	教授	ナノスケール誘電緩和計測法の開発と動的物性計測の新地平	1,600,000	480,000
	解剖学第一	和田 幸恵 (平原幸恵)	助教	質量顕微鏡によるオリゴデンドロサイト分化マーカーの可視化	900,000	270,000
	微生物学	田中 正和	助教	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いた腫瘍発生過程における遺伝子変異蓄積機序の解明	1,000,000	300,000
	生物学	佐藤 泰史	助教	胚盤胞を抗原として網羅的に作製したモノクローナル抗体ライブラリーの抗原同定	700,000	210,000
	病態検査学	吉賀 正亨	講師	質量分析イムノアッセイを用いた内因性ジギタリス産生分泌機序と高血圧発症機序の解明	800,000	240,000
	健康科学	木村 穰	教授	長期・連続・自動生体情報記録による疾患別遠隔予防・治療システムの臨床効果の研究	300,000	90,000
	内科学第三	岡崎 和一	教授	自己免疫性膝炎の病態形成における自然免疫系異常に関する研究	800,000	240,000
	内科学第二	宮坂 陽子	講師	心エコー指標による心房細動患者の心血管イベント発症と予後予測に関する検討	500,000	150,000
	病理学第一	熊野 恵城	准教授	肺がんの起源の違いに基づいたがん幹細胞を標的とした新たな治療標的の探索	800,000	240,000
	内科学第二	塚口 裕康	講師	ゲノム情報に基づく腎尿管間質性障害の新しい系統的診断フローの構築	800,000	240,000
	放射線科学	津野 隆哉	助教	ヒト癌幹細胞に対するIFN- $\alpha$ 賦活BID遺伝子/放射線集学的治療の検討	800,000	240,000
	産科学・婦人科学	岡田 英孝	教授	ヒト子宮内膜における転写因子Hand2の機能解析とその臨床的意義	1,200,000	360,000
	眼科学	尾辻 剛	講師	網膜色素上皮下の脈絡膜新生血管が治療抵抗性を示す原因の解明	400,000	120,000
	麻酔科学	中嶋 康文	診療教授	人工心肺手術周術期の血小板由来microRNAによる炎症惹起作用機序の解明	800,000	240,000
	衛生学	中塚 隆介	助教	マウス歯髄由来Sca-1陽性微小細胞の幹細胞性の検証	1,200,000	360,000
	物理学	楠本 邦子 (竹本邦子)	准教授	軟X線マイクロCT法による植物プランクトンの細胞外代謝物が含有する有機物の定量	1,100,000	330,000
	病理学第二	垠 貴司	講師	乳癌制御に効果的な海洋性キサントフィルの探索研究	500,000	150,000
	解剖学第一	若林 毅俊	非常勤講師	血管柄付き神経移植による視機能の回復	1,300,000	390,000
	生理学第二	則武 厚	助教	自己の報酬価値に影響する他者の報酬情報表現の解読—視床下部外側野の役割	900,000	270,000
	解剖学第一	高森 康晴	研究員	ニューロンおよびグリア細胞における核膜構築タンパク質の多様性	1,000,000	300,000
	微生物学	藤澤 順一	教授	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いた未発症感染キャリア成立要因の解析	1,400,000	420,000
	内科学第一	野村 昌作	教授	Tリンパ球由来マイクロパーティクルによる呼吸器関連アレルギー疾患の新規病態評価法	1,400,000	420,000
	医化学	西田 和彦	助教	投射ニューロン特異的カルシウムイメージングを用いた疼痛評価系の確立	1,300,000	390,000
	医化学	松村 伸治	講師	In vivoイメージングによる疼痛維持機構におけるプロスタノイドの役割の可視化	900,000	270,000
公衆衛生学	三宅 眞理	講師	携帯型情報通信技術を用いた介護者のための身体負担量評価システムの開発	1,300,000	390,000	
内科学第三	内田 一茂	講師	I型自己免疫性膝炎における好塩基球を介した自然免疫反応の役割	1,200,000	360,000	

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	内科学第三	西尾 彰功	准教授	膝炎発症抑制に関与する制御性B細胞の解析と治療応用の検討	1,100,000	330,000
	精神神経科学	加藤 正樹	准教授	バイオマーカーに基づく無作為割付比較試験による混合性うつ病の治療アルゴリズム構築	200,000	60,000
	放射線科学	中谷 幸	助 教	CT透視の術者被曝を低減するシールドの臨床評価	800,000	240,000
	外科学	海堀 昌樹	准教授	癌根治手術のための光プローブを用いた迅速定量病理診断法の開発	1,200,000	360,000
	外科学	松井 康輔	講 師	インドシアニングリーン・ラクトソームを用いたがん診断・治療技術の開発	1,200,000	360,000
	外科学	権 雅憲	教 授	根治不能肝腫瘍に対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の臨床応用研究	1,300,000	390,000
	脳神経外科学	浅井 昭雄	教 授	グリオーマ癌幹細胞を標的とした樹状細胞療法の開発に関する基礎研究	1,500,000	450,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	神田 晃	講 師	One airway, one diseaseの機序解明と新しい治療戦略	1,000,000	300,000
	形成外科学	楠本 健司	教 授	無細胞多血小板血漿の検証と実験的検討	1,400,000	420,000
基盤研究(C) 新規	病理学第二	義澤 克彦	講 師	キチン・キトサンオリゴ糖を用いた網膜色素変性症動物モデルでの新規治療法の確立	2,100,000	630,000
	数学	川浦 孝之	助 教	臨床研究統計手法の逆引き探索と自己学習を支援するシステムの構築	200,000	60,000
	精神神経科学	吉野 真紀	助 教	性同一性障害当事者の自己実現過程と心理的变化に関する研究	800,000	240,000
	附属生命医学研究所 神経機能部門	松尾 朋彦	研究員	嗅覚受容体における匂い情報統合機構の解析	1,300,000	390,000
	病理学第一	吉田 真子	講 師	タイムラプスイメージングに基づく膝形成原理の解明	1,000,000	300,000
	解剖学第一	山田 久夫	教 授	サテライトグリアの亜種をマルチモダル組織化学観察によって斬る！	1,200,000	360,000
	解剖学第一	田中 進	講 師	新規オレキシン転写制御因子の機能解析とナルコレプシーへの関与	1,400,000	420,000
	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門	植田 祥啓	講 師	細胞動態制御分子Rap1による胸腺制御性T細胞産生シグナルの時空間的制御	1,400,000	420,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	小林 良樹	講 師	好酸球性気道炎症の治療ターゲットとしてのステロイド受容体の局在と機能の解析	1,300,000	390,000
	医化学	片野 泰代	講 師	中枢性感作における脊髄疼痛伝達回路での神経障害性疼痛関連分子BEGAINの役割	2,000,000	600,000
	放射線科学	米虫 敦	講 師	ハイブリッド手術における医療従事者の水晶体被曝線量評価に関する多施設共同研究	1,000,000	300,000
	公衆衛生学	神田 靖士	准教授	検体に尿を用いた結核迅速診断キットの実用化の検討	1,500,000	450,000
	内科学第三	福井 寿朗	講 師	Smad2/3リンカー部リン酸化に着目した癌幹細胞・癌の発生・進展に関する検討	1,400,000	420,000
	衛生学	藤岡 龍哉	講 師	ニッチシグナル阻害によるCD34抗原陰性白血病幹細胞を標的とした抗体療法の開発	1,300,000	390,000
	内科学第一	佐竹 敦志	講 師	顆粒球単球コロニー刺激因子の免疫抑制作用を利用した慢性GVHD制御法の開発	1,400,000	420,000
	衛生学	菌田 精昭	教 授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の純化と分化経路・階層制の解明	1,400,000	420,000
	小児科学	金子 一成	教 授	ビタミンAとDの免疫作用を利用した微少変異型ネフローゼ症候群の画期的治療の検討	1,400,000	420,000
	腎泌尿器外科学	吉田 崇	助 教	副腎皮質再生メカニズムの解明と自家移植への応用	1,300,000	390,000
	呼吸器外科学	齊藤 朋人	助 教	肺癌前転移ニッチ関連バイオマーカーの特定と先制医療への展開	1,900,000	570,000
	麻酔科学	西 憲一郎	講 師	低酸素誘導性因子1機能調節解析を基軸としたタバコ誘導性肺・気道炎症機構の検討	1,800,000	540,000

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	麻酔科学	松尾 禎之	研究員	周術期炎症管理における新規診断・治療戦略の開発：レドックスバイオロジーの臨床応用	1,800,000	540,000
	腎泌尿器外科学	松田 公志	教授	泌尿器内視鏡手術におけるErgonomic analysis	2,200,000	660,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	岩井 大	教授	細胞性免疫操作による老人性難聴予防	900,000	270,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	兒島 由佳	講師	放射線性顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究	1,400,000	420,000
若手研究(B) 継続	放射線科学	吉田 理絵	助教	経皮的管腔臓器バイパス術の臨床導入：乳糜胸水に対する胸管一下大静脈バイパス術	1,000,000	300,000
	衛生学	松岡 由和	助教	ヒト造血幹細胞におけるCD34抗原の発現意義とその機能解析	1,000,000	300,000
	精神神経科学	西田圭一郎	講師	うつ病治療応用のための神経回路変化に着目した経頭蓋直流電気刺激の最適化と臨床検証	500,000	150,000
	形成外科学	覚道奈津子	助教	脂肪幹細胞と低酸素プレコンディショニング法を用いた血管・皮膚再生療法の開発	700,000	210,000
	病理学第一	厚海 奈穂	研究員	乳癌幹細胞の由来の解明 — 乳腺幹細胞可視化マウスの生体深部イメージングを通して	900,000	270,000
	生理学第二	安田 正治	講師	嫌悪情報による行動制御の神経機構の解明	1,600,000	480,000
	解剖学第一	大江 総一	助教	FMR1・CPEB1相互翻訳制御機構に注目した脆弱X症候群治療標的	1,100,000	330,000
	放射線科学	上野 裕	任期付助教(専修医)	大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果を利用したソノポレーションの評価	700,000	210,000
	精神神経科学	齊藤 幸子	助教	拡散テンソル画像解析による強迫性障害の精神分析的治療効果判定	1,400,000	420,000
	脳神経外科学	岩田 亮一	助教	B7 familyを標的にした膠芽腫の癌幹細胞に対する新規治療法の開発	1,200,000	360,000
	麻酔科学	鈴木 堅悟	助教	代謝モード解析を基軸とした麻酔薬が膵β細胞のインスリン分泌へ与える影響の研究	1,200,000	360,000
	産科学・婦人科学	都築 朋子	助教	血管新生と低酸素誘導因子HIF-1に着目した子宮内膜症の新規治療戦略	700,000	210,000
	形成外科学	尾川 武史	研究員	低酸素による脂肪幹細胞の活性化メカニズムの解明と皮弁虚血再生治療への応用	700,000	210,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	澤田 俊輔	助教	慢性歯周炎の菌槽骨吸収におけるIL-1βとCX3CR1/FKNの役割	1,000,000	300,000
	生物学	岡野 圭子(今井圭子)	助教	シアノバクテリア時計蛋白質KaiC複合体による細胞内時計の安定性制御の解析	1,200,000	360,000
	附属生命医学研究所分子遺伝学部門	近藤 直幸	助教	LFA-1接着時間制御機構の一分子解析	1,600,000	480,000
	医化学	井上 明俊	助教	脳における痒みの神経伝達機構と伝達経路の解析	1,500,000	450,000
	内科学第三	山口 隆志	助教	進行肝細胞癌に対する分子標的治療の効果を予測する新規バイオマーカーの探求	700,000	210,000
	内科学第三	富山 尚	助教	自己免疫性膵炎における疾患エクソソームの解析	1,400,000	420,000
	小児科学	山内 壮作	助教	胎児期のカルシウム不足は、仔の成獣期に高血圧や慢性腎疾患を引き起こすのか？	900,000	270,000
	精神神経科学	池田俊一郎	助教	非侵襲脳刺激法の統合失調症治療にむけた臨床症状及び客観的指標での検証	1,600,000	480,000
	麻酔科学	甲斐 慎一	助教	硫化水素代謝が低酸素環境下で細胞の代謝プログラミングに与える影響の研究	1,800,000	540,000
	腎泌尿器外科学	吉田 健志	助教	内視鏡下手術操作における技術分析と新規教育方法の開発	2,000,000	600,000
	眼科学	大中 誠之	助教	IV型コラーゲン由来ペプチドによる眼内血管新生抑制効果の検討	1,300,000	390,000
挑戦的萌芽研究 継続	医化学	伊藤 誠二	教授	二光子顕微鏡を用いた痒みの脊髄後角in vivoイメージングと情報伝達機構の解明	1,000,000	300,000

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
挑戦的萌芽研究 継続	病理学第一	上野 博夫	教授	次世代細胞系譜追跡法の開発による幹細胞探索	1,200,000	360,000
	附属生命医学研究所 生体情報部門	松田 達志	准教授	新規樹立Cre発現マウスを利用したマスト細胞機能制御の分子基盤解明	1,300,000	390,000
	麻醉科学	岩井 鉄平	助教	新規がん組織培養法を用いた麻醉薬のがん組織表現型と遺伝子型への影響の検討	1,000,000	300,000
	形成外科学	森本 尚樹	講師	インジェクタブル人工脂肪の開発	900,000	270,000
	救急医学	室谷 卓	講師	補体沈着による赤血球の機能低下が重症病態に与える影響についての研究	1,200,000	360,000
挑戦的萌芽研究 新規	附属生命医学研究所 神経機能部門	小早川 令子	学長特命 教授	情動と体温を結ぶ分子メカニズムの解明	1,700,000	510,000
	心療内科学	阿部 哲也	講師	医療面接におけるコミュニケーション技法の客観的評価指針の開発	1,200,000	360,000
	麻醉科学	廣田 喜一	准教授	ミトコンドリアサイブリッド細胞を用いたプロポフォル注入症候群の分子機構解明	1,700,000	510,000
	薬理学	赤間 智也	准教授	角膜細胞外マトリックスの改造による角膜厚調節	1,600,000	480,000

(単位：円)

**平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)**

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(B)継続	形成外科学	森本 尚樹	講師	細胞成長因子保持型人工真皮を用いた細胞治療および細胞誘導治療	2,100,000	630,000
	内科学第二	塩島 一郎	教授	Insulin/IGFの協調作用を介した心機能調節機構の解明	3,700,000	1,110,000

(単位：円)

**平成27年度科学研究費助成事業交付決定(追加分)一覧(日本学術振興会)**

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付決定額		
					直接経費	間接経費	合計
研究活動スタート支援	麻醉科学	松尾 禎之	研究員	低アディポネクチン血症克服のための新規分泌調節機構の解明—レドックス制御の関与—	1,200,000	360,000	1,560,000
	法医学	松本 智寛	講師	合成カンナビノイドの体内動態及び体内分布の解明	1,200,000	360,000	1,560,000
決定額(追加分)合計					2,400,000	720,000	3,120,000

(単位：円)

**平成27年度科学研究費助成事業交付決定(追加：他大学から転入の代表者)一覧(日本学術振興会)**

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付決定額		
					直接経費	間接経費	合計
基盤研究(C)	数学	北脇 和己	教授	自転車ペダリング動作中の逆動力学シュミレーションに基づく体幹深部筋の活動推定	1,100,000	330,000	1,430,000
	病態検査学	薦 幸治	教授	KIF5B-RET転座陽性肺癌症例の臨床病理像の解析	1,000,000	300,000	1,300,000
若手研究(B)	解剖学第一	大江 総一	助教	FMR1・CPEB1相互翻訳制御機構に注目した脆弱X症候群治療標的	1,000,000	300,000	1,300,000
決定額(追加：他大学から転入の代表者)合計					3,100,000	930,000	4,030,000

(単位：円)

## 平成27年度科研費(追加：分担者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

研究種目等	研究分担者		研究代表者	研究課題	直接経費	間接経費	合計	
基盤研究(B)	附属生命医学研究所 生体情報部門	松田 達志	准教授	筑波大学 講師 三輪 佳宏	マウス高度非侵襲イメージングシステムの開発と応用	700,000	210,000	910,000
	解剖学第一	田中 進	講師	東京都医学総合研究所 副参事研究員 児玉 亨	デフォルト脳活動からの認知情報選択への神経基盤を探る：リソースとしてのドーパミン	500,000	150,000	650,000
	腎泌尿器外科学	松田 公志	教授	大阪大学サイバーメディアセンター 准教授 黒田 嘉宏	多層計測と非線形柔軟物モデルの協調による実時間臓器追跡に関する研究	400,000	120,000	520,000
	腎泌尿器外科学	吉田 健志	助教	大阪大学サイバーメディアセンター 准教授 黒田 嘉宏	多層計測と非線形柔軟物モデルの協調による実時間臓器追跡に関する研究	400,000	120,000	520,000
	小児科学	石崎 優子	准教授	甲南女子大学 教授 丸 光恵	思春期・若年成人がん患者・サバイバーへの医療・教育・就労支援に関する国際比較研究	400,000	120,000	520,000
	外科学	権 雅憲	教授	大阪電気通信大学 教授 登尾 啓史	GPUの深度画像並列処理機能による肝臓手術ナビゲーションシステムの製作とその評価	100,000	30,000	130,000
	外科学	海堀 昌樹	准教授	大阪電気通信大学 教授 登尾 啓史	GPUの深度画像並列処理機能による肝臓手術ナビゲーションシステムの製作とその評価	200,000	60,000	260,000
救急医学	早川 航一	講師	京都大学 教授 石見 拓	院外心停止例の救命に寄与する要因の多面的分析と治療ストラテジの構築に関する研究	100,000	30,000	130,000	
基盤研究(C)	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	宮本 真	講師	兵庫医療大学 教授 野崎 園子	要介護高齢者の嚥下障害と服薬方法に関する研究	200,000	60,000	260,000
		友田 幸一	学長	滋賀大学 准教授 芦谷 道子	小児の聴覚処理障害に対する評価と教育臨床心理的支援	50,000	15,000	65,000
	解剖学第一	田中 進	講師	東京都医学総合研究所 研究員 本多 和樹	ナルコレプシーにおける、より侵襲性の低い診断法の確立	500,000	150,000	650,000
	心療内科	阿部 哲也	講師	大阪教育大学 教授 串田 秀也	診療場面における医師の情報収集プロセスの比較会話分析	400,000	120,000	520,000
	医化学	伊藤 誠二	教授	大阪工業大学 教授 芦高 恵美子	NIPSNAPIによるミトコンドリアの品質管理制御と疼痛慢性化との関連	50,000	15,000	65,000
	形成外科学	森本 尚樹	講師	滋賀医科大学 准教授 岡野 純子	糖尿病性皮膚潰瘍の発生予防-皮膚バリア機能破綻機序の解明と新規治療法の開発	100,000	30,000	130,000
	外科学	海堀 昌樹	准教授	立命館大学 准教授 西澤 幹雄	新しい核酸医薬で敗血症を治療するための分子基盤の構築	300,000	90,000	390,000
	外科学	杉江 知治	診療教授	立命館大学 助教 吉田 徳之	乳癌悪性転化の予防・治療を標的とする革新的核酸医薬の創出	234,000	70,200	304,200
	内科学第一	稲葉 宗夫	非常勤講師	立命館大学 教授 木村 富紀	宿主自然免疫ゲノム情報の発現制御に基づく革新的インフルエンザ予防・治療薬の開発	100,000	30,000	130,000
	外科学	駒井 宏好	診療教授	東京医科歯科大学 准教授 井上 芳徳	閉塞性動脈疾患における菌周病治療の有効性について	70,000	21,000	91,000
	麻酔科学	中嶋 康文	診療教授	京都府立医科大学 客員講師 影山 京子	microRNAによる急性腎障害発症機序の解明と、早期診断バイオマーカーへの応用	100,000	30,000	130,000
	麻酔科学	中嶋 康文	診療教授	京都府立医科大学 助教 中山 力恒	周術期抗血小板薬効果モニタリングのための血小板由来microRNA発現解析の検討	100,000	30,000	130,000
	麻酔科学	中嶋 康文	診療教授	京都府立医科大学 准教授 橋本 悟	腎肺クロストークを介した人工呼吸器誘発性腎障害のメカニズムの解明	400,000	120,000	520,000
	附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門	廣田 喜一	学長特別教授	公益財団法人田附興風会 部長 足立 健彦	急性肺障害の慢性化過程に動的な生体内レドックスリモデリングが果たす役割の追究	1,700,000	510,000	2,210,000
	解剖学第一	若林 毅俊	非常勤講師	国際医療福祉大学 教授 小阪 淳	再生視神経回路のリハビリテーションによる視覚中枢の遺伝子発現パターン修飾	30,000	9,000	39,000
放射線科学	米虫 敦	講師	慶應義塾大学 助教 井上 政則	乳糜胸水に対する経皮的胸管塞栓術の基礎的検討：実験動物モデルの確立と安全性の検討	20,000	6,000	26,000	
挑戦的萌芽研究	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	東京大学 准教授 澤井 哲	免疫細胞における時空間情報処理特性の解析	300,000	90,000	390,000
	麻酔科学	中嶋 康文	診療教授	京都府立医科大学 教授 佐和 貞治	単一ドメイン抗体によるグラム陰性菌III型病原毒性の抑制探索	100,000	30,000	130,000
決定額(追加：分担者)合計					7,554,000	2,266,200	9,820,200	

(単位：円)

厚生労働省関係

平成28年度厚生労働科学研究費補助金交付内定者(代表者)一覧

研究事業名	研究代表者			研究課題	直接経費	間接経費	合計
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業(移植医療基盤整備研究分野))	衛生学	藪田 精昭	教授	非血縁者間臍帯血移植における移植造血幹細胞数と移植成績の相関—移植用臍帯血有効利用への応用—	3,900,000	975,000	4,875,000

(単位：円)

平成27年度厚生労働科学研究補助金(分担者)一覧(事務委任分)

研究事業名他	講座	氏名	職位	課題名	研究代表者	直接経費
難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策政策研究事業)	内科学第三	岡崎 和一	教授	IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	京都大学 大学院総合生存学館思修館 特定教授 千葉 勉	3,000,000
	内科学第三	岡崎 和一	教授	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	東邦大学 医学部 教授 鈴木 康夫	500,000
	小児科学	藤井 喜充	講師	小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	九州大学 医学研究院 教授 田口 智章	3,571
	外科学	濱田 吉則	診療教授	小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	九州大学 医学研究院 教授 田口 智章	100,000
	外科学	濱田 吉則	診療教授	小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	東北大学 大学院医学系研究科 教授 仁尾 正記	120,000
	皮膚科学	神戸 直智	准教授	ブラウ症候群の診断基準・重症度分類、診療ガイドラインの確立に関する研究	京都大学 大学院医学研究科 教授 平家 俊男	600,000
	眼科学	高橋 寛二	教授	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	岡山大学 大学院医歯学総合研究科 教授 白神 史雄	100,000
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	小児科学	石崎 優子	准教授	慢性疾患に罹患している児の社会生活支援ならびに療育生活支援に関する実態調査およびそれら施策の充実に関する研究	東京大学 大学院医学系研究科 教授 水口 雅	500,000
厚生労働科学研究費補助金(分担者)合計						4,923,571

(単位：円)

平成27年度厚生労働科学研究費補助金(分担者)一覧(代表管理分)

研究事業名他	講座	氏名	職位	課題名	研究代表者	直接経費
免疫アレルギー疾患等政策研究事業	衛生学	藤岡 龍也	講師	非血縁者間臍帯血移植における移植造血幹細胞数と移植成績の相関—移植用臍帯血有効利用への応用—	衛生学 教授 藪田 精昭	—
	衛生学	松岡 由和	助教	非血縁者間臍帯血移植における移植造血幹細胞数と移植成績の相関—移植用臍帯血有効利用への応用—	衛生学 教授 藪田 精昭	—
	内科学第一	野村 昌作	教授	非血縁者間臍帯血移植における移植造血幹細胞数と移植成績の相関—移植用臍帯血有効利用への応用—	衛生学 教授 藪田 精昭	—
	内科学第一	藤田 真也	講師	非血縁者間臍帯血移植における移植造血幹細胞数と移植成績の相関—移植用臍帯血有効利用への応用—	衛生学 教授 藪田 精昭	—
難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策政策研究事業)	内科学第三	岡崎 和一	教授	難治性膝疾患に関する調査研究	近畿大学 医学部 教授 竹山 宜典	—
	小児科学	金子 一成	教授	先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群(総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH症候群)におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドライン作成	新潟大学 医歯学系 教授 窪田 正幸	—
創薬基盤推進研究事業	微生物学	藤澤 順一	教授	抗HIV-1核酸系逆転写酵素阻害薬アバカビルの人T細胞白血病への適応拡大に関する臨床研究	京都大学 医学研究科 教授 高折 晃史	—

(単位：円)

その他公的研究費

平成27年度日本医療研究開発機構(AMED)、科学技術振興機構(JST)等 委託費等採択一覧

※委託費等採択額：直接経費¥73,251,309— 間接経費¥18,104,806— 合計¥91,356,115—

所管組織等	事業名等	講座	氏名	職位	研究課題名	研究代表者/研究分担者	研究代表者、研究分担者、共同研究者等	直接経費	間接経費	合計
日本医療研究開発機構(AMED)	医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 戦略的国際科学技術協力推進事業(SICP)	生理学第二講座	磯田 昌岐	准教授	計算論的アプローチを用いた実学習、フィクティブ学習、および観察学習の神経機構の解明	研究代表者	オットー・フォン・ゲーリケ大学 マグデブルク(ドイツ)	4,400,000	440,000	4,840,000
	創薬支援推進事業	医化学講座	下條 正仁	講師	nSR100を標的とする小細胞肺癌がん治療薬の探索—スクリーニング(S1)	研究代表者	医薬基盤・健康・栄養研究所 日本医療研究開発機構	3,509,740	350,974	3,860,714
	脳科学研究戦略推進プログラム	生理学第二講座	中村 加枝	教授	経頭蓋磁気刺激(TMS)とモノアミン神経系動態のモニタリングに基づく脳幹—大脳皮質ネットワークダイナミクスの解明と磁気刺激治療の最適化	研究代表者	東北大学 大阪大学	12,115,385	3,634,615	15,750,000
	革新的がん医療実用化研究事業	形成外科学講座	森本 尚樹	講師	先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発	研究代表者	京都大学 国立循環器病研究センター 大阪工業大学	20,238,001	6,071,400	26,309,401 (※経費等合計の総額 33,788,100)
	医薬品等規制調和・評価研究事業	整形外科講座	飯田 寛和	教授	我が国における金属摩擦粉による人工股関節置換術合併症の調査研究	研究代表者	岐阜大学 大阪大学	520,000	156,000	676,000 (※経費等合計の総額 5,382,000)
自然科学研究機構(NINS)	新分野創成センター ブレインサイエンス研究分野プロジェクト	附属生命医学研究所 神経機能部門	小早川 令子	学長特命教授	情動や行動の制御を担う霊長類の嗅覚受容体遺伝子の解明	研究代表者	—	1,200,000	0	1,200,000
科学技術振興機構(JST)	研究成果最速展開支援事業 研究成果最速展開支援プログラム(A-STEP)シズ育成タイプ	附属生命医学研究所 神経機能部門	小早川 令子	学長特命教授	害獣忌避剤のコントロールドリリリース技術の開発	研究代表者	株式会社カネカ 神戸大学	5,000,000	1,500,000	6,500,000
日本医療研究開発機構(AMED)	次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム	衛生学講座	藺田 精昭	教授	「がん幹細胞を標的とした根治療法の開発」(がん幹細胞を標的とした新規抗治療法の開発)	研究分担者	大阪大学 寄附講座准教授 保仙 直毅	1,818,182	181,818	2,000,000
	未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業 ニューロリハビリシステム	整形外科講座	長谷 公隆	診療教授	未来医療を実現する先端医療機器・システムの開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	研究分担者	慶応義塾大学 教授 里宇 明元	7,692,308	2,307,692	10,000,000
	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	微生物学	田中 正和	助教	HTLV-1予防ワクチンの開発に関する研究	研究分担者	国立感染症研究所 部長 長谷川 秀樹	3,846,154	1,153,846	5,000,000
	革新的がん医療実用化研究事業	外科学講座	井上 健太郎	准教授	高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関する臨床試験	研究分担者	静岡県立静岡がんセンター 部長 寺島 雅典	1,200,000	0	1,200,000
	創薬基盤推進研究事業	内科学第一講座	佐竹 敦志	講師	インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	研究分担者	岡山大学 助教 松岡 賢市	400,000	100,000	500,000
	革新的がん医療実用化研究事業	内科学第一講座	倉田 宝保	診療教授	局所進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン+S1同時胸部放射線治療とシスプラチン+ペメトレキセド同時胸部放射線治療の無作為化第II相試験	研究分担者	国立がん研究センター 東病院 病院長 仁保 誠	1,000,000	0	1,000,000
	革新的がん医療実用化研究事業	内科学第一講座	倉田 宝保	診療教授	未治療原発不明癌に対する次世代シークエンスを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う第II相試験	研究分担者	近畿大学 教授 中川 和彦	1,000,000	300,000	1,300,000
	革新的がん医療実用化研究事業	内科学第一講座	倉田 宝保	診療教授	高齢者進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	研究分担者	九州大学 特任准教授 岡本 勇	650,000	0	650,000
	革新的がん医療実用化研究事業	放射線科学講座	谷川 昇	教授	最新のIVRによる症状緩和についての研究	研究分担者	国立がん研究センター 中央病院 病院長 荒井 保明	1,000,000	0	1,000,000
	難治性疾患実用化研究事業	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	神田 晃	講師	鼻茸マウスモデルの作成に関する研究	研究分担者	福井大学 教授 藤枝 重治	1,000,000	300,000	1,300,000
	難治性疾患実用化研究事業	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	朝子 幹也	准教授	ナットウキナーゼによるランダム化プラセボ対照二重盲検試験	研究分担者	福井大学 教授 藤枝 重治	500,000	150,000	650,000
	革新的がん医療実用化研究事業	放射線科学講座	中村 聡明	准教授	頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床試験	研究分担者	近畿大学 教授 西村 恭昌	800,000	0	800,000
	革新的がん医療実用化研究事業	外科学講座	海堀 昌樹	准教授	革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	研究分担者	東京大学 教授 藤堂 具紀	1,538,462	461,538	2,000,000
	革新的がん医療実用化研究事業	外科学講座	海堀 昌樹	准教授	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究	研究分担者	杏林大学 准教授 長島 文夫	600,000	180,000	780,000
	難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学講座	神戸 直智	准教授	ブラウ症候群の治療標的分子同定および薬剤開発基盤整備	研究分担者	京都大学 教授 平家 敏男	800,000	240,000	1,040,000
	難治性疾患実用化研究事業	内科学第三講座	岡崎 和一	教授	IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	研究分担者	京都大学 教授 三森 経世	923,077	276,923	1,200,000
	難治性疾患実用化研究事業	微生物学講座	竹之内徳博	准教授	HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築(HAMに対する標準治療の確立に資する臨床試験実施を目指した研究)	研究分担者	宮崎大学 教授 岡山 昭彦	500,000	0	500,000
	難治性疾患実用化研究事業	微生物学講座	竹之内徳博	准教授	HAMの革新的な医薬品等の開発促進に関する研究 有効性評価指標の開発(多施設共同前向き研究)	研究分担者	聖マリアンナ医科大学 教授 山野 嘉久	1,000,000	300,000	1,300,000

(単位：円)

## 平成27年度 日本医療研究開発機構(AMED)代表者管理分

所管組織等	事業名等	講 座	氏 名	職 位	研究課題名	研究代表者/ 研究分担者	研究代表者、研究分担者、 共同研究者等	直接経費	間接経費	合 計
日本医療研究開発機構 (AMED)	革新的がん医療実用化研究事業	外科学	柳本 泰明	講 師	切除不能膀胱癌に対する標準治療の確立に関する研究	研究分担者	杏林大学 医学部 教授 古瀬 純司	0	0	0
	革新的がん医療実用化研究事業	放射線科学	中村 聡明	准教授	切除不能膀胱癌に対する標準治療の確立に関する研究	研究分担者	杏林大学 医学部 教授 古瀬 純司	0	0	0

### その他外部資金

## 平成27年度研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成27年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈された。

研究助成金額合計：¥23,200,000

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成27年度研究助成	内科学第二 豊田 長興 診療教授	ヒト心筋細胞及び心筋前駆細胞の甲状腺ホルモン代謝に及ぼすニコチンの影響に関する検討	2,000,000
公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成27年度研究助成	産科学・婦人科学 安田 勝彦 准教授	喫煙婦人の子宮内環境と付随する産婦人科疾患	2,500,000
公益財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 平成27年度研究助成	内科学第二 大谷 肇 准教授	冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム比較試験(REAL-CAD)	20,000
公益財団法人 がん研究振興財団 平成26年度がん研究助成(一般課題：A)	病理学第一 熊野 恵城 准教授	肺癌の起源の違いに基づいたがん幹細胞を標的とした新たな治療標的の探索	1,000,000
ネスレ日本株式会社 ネスレ栄養科学会議 平成27年度研究助成	附属生命医学研究所 神経機能部門 小早川 高 学長特命准教授	Identification of odorant receptors controlling appetite and food preference	1,000,000
公益財団法人 大阪難病研究財団 平成27年度医学研究助成	精神神経科学 許 全利 研究医員	成人発症Ⅱ型高シトルリン血症患者のソーシャルサポート研究	1,000,000
公益財団法人 森永奉仕会 平成26年度研究奨励金	小児科学 神田 枝理子 助教	胎児期の環境因子がおよぼす先天性腎尿路奇形の発生率への影響	400,000
公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団 平成27年度技術開発研究助成開発研究助成金	物理学 影島 賢巳 教授	再生医療用細胞シートの磁気力負荷装置による新たな物性計測法の開発	2,550,000
公益財団法人 武田科学振興財団 2015年度医学系研究奨励 (精神・神経・脳領域)	附属生命医学研究所 神経機能部門 小早川 令子 学長特命准教授	先天的と後天的な恐怖情動の拮抗的制御を担う分子機構の解明	2,000,000
公益財団法人 武田科学振興財団 2015年度ビジョナリーリサーチ助成	附属生命医学研究所 神経機能部門 小早川 高 学長特命准教授	嗅覚創薬の理論基盤	2,000,000
公益財団法人 武田科学振興財団 2015年度ライフサイエンス研究奨励	附属生命医学研究所 神経機能部門 松尾 朋彦 特別研究員	情動を制御する嗅覚系神経回路	2,000,000
公益財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 岩本 慈能 講師	Stage3(Dukes'C)結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの至適投与期間に関するランダム化第3比較臨床試験(JFMC37-0801)	30,000
国立大学法人 平成28年度東京大学医学研究所 共同研究	外科学 海堀 昌樹 准教授	ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究	—
公益財団法人 先進医薬研究振興財団 2015年度一般研究助成	内科学第一 佐竹 敦志 講師	遺伝子組換えトロンボモジュリンによる同種造血幹細胞移植後免疫反応の制御機構の解明	1,000,000
公益財団法人 日本アレルギー協会 真鍋奨励助成	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 神田 晃 講師	ヒトiPS細胞からの好酸球誘導法の確立とその臨床応用への展望	1,000,000
公益財団法人武田科学振興財団 2015年度ビジョナリーリサーチ継続 助成(ステップ)	薬理学 中邨 智之 教授	弾性線維の再生～マトリックス創薬への第1歩～	10,000,000
公益財団法人 光科学技術研究振興財団 平成27年度研究助成金	病理学第一 上野 博夫 教授	超多色キメラ法(5色から35色)によるマウス幹細胞発生・維持過程の解析システムの構築	700,000
公益財団法人 高松宮妃癌研究基金 平成27年度研究助成金	病理学第一 上野 博夫 教授	多色細胞系譜追跡法によるがん幹細胞モデルの検証と解析	2,000,000
一般財団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団 平成27年度研究助成金	腎泌尿器外科学 松田 公志 教授	去勢抵抗性前立腺癌の治療実態に関する後方研究	1,000,000

(単位：円)

総合医療センター 総合医療センター新本館竣工式・施設披露宴

4月23日(土)、総合医療センター新本館の竣工式および施設見学、披露宴が執り行われました。

午前11時から1階外来待合ホールにおいて行われた竣工式には、西端勝樹守口市長や生野弘道守口市医師会会長を来賓に迎え、本学山下敏夫理事長、友田幸一学長、総合医療センター岩坂壽二病院長ら教職員、ならびに株式会社日本設計(設計)六鹿正治取締役会長、株式会社竹中工務店(施工)竹中統一取締役会長らが参加しました。

続いて行われた施設見学では、グループに分かれ新本館を内覧。手術室や病室、屋上庭園などを巡り、職員の解説を聞きました。

見学の後、1階エントランスホールで披露宴が催されました。冒頭挨拶に立った山下理事長からは、ホスピタルガーデン完成までの一連のリニューアル構想が説明され、岩坂病院長からは関係各位への謝意と今後の抱負が語られました。また、西端守口市長と生野守口市医師会会長の来賓祝辞ではそれぞれ、今後の総合医療センターの発展と地域医療への貢献に期待を込めたことが贈られました。澤田敏常務理事の発声で乾杯の後、歓談を挟んで木下利彦建設担当理事の謝辞、神崎秀陽常務理事の挨拶があり、総勢130名を迎えての竣工式・披露宴は無事閉会しました。

また、翌日24日(日)には関係者と登録医、一般市民対象の内覧会が行われ、701名が訪れました。



岩坂病院長(写真)はじめ関係者一同、無事の竣工に対する感謝の意を示し、今後の安全と繁栄を祈願しました



施設見学をする西端守口市長(右から3人目)、生野守口市医師会会長(右端)ら



披露宴は終始和やかな雰囲気の中、進行了しました



屋上庭園で憩う市民の方たち(24日内覧会の様子)

**病 院** 本学DMATが熊本地震被災地で救援活動を行いました

4月14日(木)以降相次いだ地震によって大きな被害を受けた熊本県へ、本学附属病院および総合医療センターの災害派遣医療チーム(DMAT)2チーム(それぞれ医師2名、看護師2名、業務調整員1名で構成)が、派遣されました。

4月16日(土)早朝に出発した本学DMATは、同日夜現地に到着。熊本赤十字病院(熊本市東区)を活動拠点として、避難所に設置された救護所での診療など救援活動に従事しました。



出動前のメンバー

本学では熊本地震の被災者を支援する目的で義援金の募集を行いました。ご賛同された有志の篤志に深謝いたします。教職員一同、今回の熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一刻も早い復旧・復興を祈念しております。

**附属病院** 臨床遺伝センターが設立されました

5月1日(日)、附属病院に「臨床遺伝センター」が設立されました。現在、当部門では妊娠中に遺伝学的検査を検討しているご夫婦に、遺伝子検査や遺伝情報についての遺伝カウンセリングを提供しています。

## ■センター長挨拶

「臨床遺伝センター」では、遺伝カウンセリングを通して、遺伝子検査や遺伝情報について正しく理解してもらい、最良の意思決定ができるようサポートすることを第一の目的としています。臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが中心となって相談に応じています。検査を受けるメリットやデメリットなどを説明し、検査を受けるどうかを含め遺伝カウンセリングを受診された方が納得のいく意思決定ができるようサポートしています。現在は主に、妊婦さんご夫婦に向けて出生前検査について遺伝カウンセリングを行っています。今後は遺伝に関する悩み相談や、各診療科が行う遺伝学的検査などの遺伝カウンセリングも受け付けていく予定です。

臨床遺伝センターセンター長 岡田 英孝

**附属病院** ふれあい看護体験を実施

5月11日(水)午前9時から附属病院において、「ふれあい看護体験」が開催されました。これは「看護の日」に合わせ、医療・福祉施設が「看護職」についての理解を深めてもらうために、施設見学や看護体験を行うイベントです。この日は、看護に興味を持つ大阪府内の高校生3名が参加しました。

白衣に身を包んだ参加者は、オリエンテーションやDVD鑑賞を経て、各病棟に分かれ新生児の沐浴や車椅子患者の誘導等、実際の現場で看護を体験。参加者は「看護の現場は思っていたより忙しく大変そうだったが、患者さんのために熱心に働く姿を見て、早く看護師になり現場に立ちたいと思った」と真剣に話していました。



車椅子介助を体験する参加者(中央)

## 附属看護専門学校戴帽式



5月11日(水)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、附属看護専門学校平成28年度戴帽式が行われました。学生の保護者ほか多くの臨席者が見守るなか、臨地実習を控えた76名の看護学生にナースキャップと、ナイチンゲールの精神を象徴する聖火が授けられました。

岡崎和一学校長の式辞に続き、来賓の山下敏夫理事長、附属病院安田照美看護部長からそれぞれ、戴帽生への激励の言葉が述べられました。

### 学校長式辞

学校長 岡崎 和一

平成28年度戴帽生の皆さん、本日は戴帽おめでとうございます。看護専門学校の教職員を代表して心からお祝い申し上げます。ご列席の保護者の方々におかれましては、厳かな雰囲気の中、お子様達の凛とした姿を見て、さぞかし感動されたことと思います。あらためてお慶び申し上げます。また、ご来賓の皆様方には、本日は何かとお忙しいところ、本校戴帽式のためにご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

さて戴帽生の皆さん、先程の戴帽式はいかがだったでしょうか？きっと看護師を志した頃に思いを馳せ、さらにその思いを強くしたのではないかと思います。昨今、臨床の現場では、院内感染対策や医療安全上の理由から、ナースキャップを着用しなくなっています。それに伴い、戴帽式を行わない看護学校や看護学部が増えています。

では、皆さんが学ぶこの関西医大附属看護専門学校は時代に取り残されているのでしょうか？答えは「ノー」です。皆さんの敬愛するナイチンゲールは、かのクリミア戦争で傷ついた方を蠟燭の明かりのもと、夜通しで看病したと言われています。この戴帽式の意義は、皆さんがこれから患者さんのお世話をする看護の実習を始める前にナイチンゲールの精神を思い起こすとともに、あらためて自分を見つめ直し、大きな責任を伴う看護の道を歩むことを自覚するところにありますし、これは関西医

大の建学の精神である「慈仁心鏡」に通じるものがあります。将来、看護の道を進むとき、いろいろな壁にぶつかり、悩む時もあるかと思いますが。その時には、今日のこの感動を思い出してもらえればと思います。

さて、今後本格的な臨地実習を迎えるにあたって一言話をさせていただきたいと思います。それは患者さんあるいは周りの方に、決していいかげんな、あるいは不適当な言葉遣いで接することのないように心掛けてください。すでに授業でもお聞きになっているように、看護には知識・技術とともに、コミュニケーション能力が大変重要です。コミュニケーションの第一歩はなんと言っても言葉遣いです。病院で接する多くの方は、目上の人です。実習先では常に意識的に、丁寧な言葉遣いを心がけて下さい。友だち口調や命令口調で言葉掛けをされた場合、皆さんが患者さんの立場であったらどのように感じるかを是非考えて下さい。乱れた言葉を使用している、患者さんや他の医療者との信頼関係が築けなくなります。皆さんは学生であるとはいえ、臨地実習では社会人としての言葉遣いが求められます。指導者の先生方から厳しい指摘を受けるかもしれませんが、それは看護師への成長の為の愛の鞭と考えて下さい。

最後に、健康には十分留意し、厳しい実習を終え、晴れの卒業式を迎えられることを祈念して私の式辞と致します。

## 平成29年度附属看護専門学校入学試験について

今年度入試日程が決定しました。

### 【推薦入学試験(指定校・公募制)】

募集人員	40名(指定校・公募推薦合わせて)
出願期間	平成28年10月24日(月)～11月7日(月)※当日消印有効
試験日時	平成28年11月19日(土)午前9時開始
試験科目	学科試験(各50分)国語：国語総合(漢文・古文除く)・英語：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 面接試験
試験場	附属看護専門学校
合格発表日	平成28年11月29日(火)

### 【一般入学試験(前期)】

募集人員	30名
出願期間	平成28年12月1日(木)～12月19日(月)※消印有効
試験日時	平成29年1月13日(金)午前9時開始
試験科目	学科試験(各50分)国語：国語総合(漢文・古文除く)・現代文A、英語コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、 数学Ⅰ(但し、「データの分析」は除く) 面接試験
試験場	附属看護専門学校
合格発表日	平成29年1月23日(月)

### 【一般入学試験(後期)】

募集人員	10名
出願期間	平成29年1月23日(月)～2月6日(月)※消印有効
試験日時	平成29年2月21日(火)午前9時開始
試験科目	学科試験(各50分)国語：国語総合(漢文・古文除く)・現代文A、英語：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 面接試験
試験場	附属看護専門学校
合格発表日	平成29年3月1日(水)

出願書類など詳細は本校ホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/juken/>)をご覧ください。

## 初期臨床研修合同説明会『研修医と語ろう会』を実施

5月7日(土)午後3時から附属病院13階講堂およびレストラン「のぞみ」において、平成29年度初期臨床研修医募集のための合同説明会が行われました。昨秋開催した説明会と同じ学年が参加対象となることから、今回は趣向を変え、研修医との交流を中心とする説明会を企画しました。『研修医と語ろう会』と銘打って行われた説明会は、参加した学生からも「一番身近な存在である研修医の生の声を聞くことができよかった」と、好評を得ました。引き続き行われた情報交換会でもほとんどの学生が、最後まで残って熱心に指導医らと交流を図っていました。



真剣な表情で説明を聞く参加学生(附属病院13階講堂)

## 専門研修合同説明会が盛況のうちに終了

6月4日(土)午後3時30分から枚方学舎3階学生食堂において、平成28年度専門研修合同説明会が開催されました。現在検討が重ねられている新専門医制度についての説明会であったことから関心も高く、本学2年次研修医21名、1年次研修医16名、他病院の研修医13名の合計50名が参加。松田公志副学長(腎泌尿器外科学講座教授)の挨拶の後、卒後臨床研修センター金子一成センター長(小児科学講座教授)が現段階での新専門医制度についての説明を行いました。その後、17プログラム約31名の指導医がブースに分かれて各プログラムの説明にあたりました。



各ブースでの説明の様子



## 一般財団法人加多乃会研究助成

関西医科大学同窓会理事 一般財団法人加多乃会監事 北尻 雅則(45回生)

一般財団法人加多乃会研究助成は、9賞17種類あります。優秀な研究業績をあげている方々に贈与される「加多乃賞」を始めとして、優秀論文に対する「佐々木千枝子賞」、研究助成・医療功労賞として「森本園子賞」、若手優秀研究者に対する「北西壽子賞」、教職員の優れた論文あるいは大学院生・医学部学生の国外派遣、臨床実習の助成として「櫻根啓子賞」、海外留学・出張の助成として「藤原登美子賞」、医学・看護学の研究助成として「塩崎安子賞」、医学・医療・福祉振興を目的とした「和田喜代子賞」ならびに「丹家雛子賞」です。

受賞対象者数は40名を超え、賞金総額は2,250万円です。「櫻根啓子賞」「和田喜代子賞：3)和田喜代子奨励賞」及び「丹家雛子賞：3)丹家雛子交付奨学金」は関西医科大学関係者(学生、大学院生、教職員等)のみが交付対象ですが、その他については関西医科大学以外の方も応募できます。

### 同窓会研究助成一覧

名 称 (9賞17種類)	賞金		交付対象					
	受賞 件数	1件当りの 賞金	研究 業績	優秀 論文	医療・ 功労	海外留学 出張等	医療看護 分野	奨励賞・ 奨学金
1 研究助成「加多乃賞」(毎年交付)	6件以内	50万円	○					
2 「佐々木千枝子(ささきちえこ)賞」	1件	100万円		○				
「森本園子(もりもとそのこ)賞」								
3 1) 森本賞	1件	100万円	○					
2) 森本医療功労賞	1件	100万円			○			
4 「北西壽子(きたにしとしこ)賞」	2件以内	100万円	○					
「関西医科大学 櫻根啓子(さくらねひろこ)賞」								
5 教職員 1) 研究論文	1件	100万円		○				
大学院生 2) 国外学会発表	4件以内	25万円				○		
医学部学生 3) 国外臨床実習	原則として 10件以内	15万円				○		
「藤原登美子(ふじわらとみこ)賞」								
6 海外留学助成	2件以内	50万円				○		
海外出張助成	4件以内	25万円				○		
7 「塩崎安子(しおぎきやすこ)賞」	2件以内	50万円					○	
「和田喜代子(わだきよこ)賞」								
8 1) 和田喜代子賞	1件	100万円	○					
2) 和田喜代子優秀業績賞	1件	100万円		○				
3) 和田喜代子奨励賞	2件以内	100万円						○
「丹家雛子(たんけひなこ)賞」								
9 1) 丹家雛子賞	2件以内	100万円	○					
2) 丹家雛子医療奨励賞	2件以内	50万円					○	
3) 丹家雛子交付奨学金	2件以内	50万円						○
合 計			5	3	1	4	2	2



# 第15回関西医科大学医学会賞

平成28年3月18日(金)枚方学舎4階中会議室において、第132回関西医科大学学内学術集談会(世話講座：腎泌尿器外科学講座)が開催されました。同集談会にて、第15回関西医科大学医学会賞に選ばれた三名をご紹介します。

## 医学会賞(優秀賞)

腎泌尿器外科学講座 駒井 資弘 助教



### ■演題「長期生殖幹細胞におけるBmi1の発現」

この度、名誉ある関西医科大学医学会賞優秀賞を受賞させて頂きましたこと、心から感謝申し上げます。私は平成23年に大学院へ入学し、上野博夫教授率いる病理学第一講座で幹細胞についての研究を開始しました。当時、上野教授が本気で世界と戦っているのを肌で感じ、私も日々院生仲間と夜遅くまで熱く語り合ったのを思い出します。

そのような状況で、泌尿器科の臓器をくまなく解析しているうちに、偶然、精巣にBmi1陽性細胞を発見しました。マウスの精子形成は約5週間で完成するのですが、Rainbowマウスを使用した多色細胞系譜追跡法で2ヶ月、3ヶ月後以降もBmi1陽性細胞が精子を供給し続けている事を確認した時は、本当に興奮しました。幹細胞の維持や再生のメカニズムについて学び、それががんの発生や再発など臨床分野の研究に繋がる事を学べた事は私にとって大きな収穫です。結果を出すまで様々な壁にぶつかりましたが、周囲の方々に助けられ何とか乗り切ることができました。

最後に、この場をお借りしてご指導・ご支援くださった上野博夫教授、松田公志教授に厚く御礼申し上げます。

## 医学会賞(奨励賞) 形成外科学講座 井上 唯史 研究員



### ■演題「LTBP-2は眼球の毛様小帯形成に必須のタンパク質である」

関西医科大学医学会賞奨励賞を授与いただき、大変光栄に存じます。

本大学の形成外科学講座の医師であった私は、2007年4月、着任されたばかりの薬理学講座・中邨教授の下で研究を始めました。中邨先生は、形成外科の臨床しか知らなかった私に、基礎研究の面白さ・厳しさ・奥深さなど、様々なことを教えてくださいました。皮膚の弾性繊維の研究をするつもりで研究を始めましたが、気がつけば、眼の毛様小帯の研究をしていました。一見、形成外科医として役に立っていないように見えますが、臨床の大学院では得難かったであろう、医療全般に共通する幅広い基礎的な知識が得られたと感じています。

中邨教授をはじめとする薬理学講座の皆様、楠本教授をはじめとする形成外科学講座の皆様へ深謝致します。

## 医学会賞(奨励賞) 放射線科学講座 河野 由美子 病院助教



### ■演題「多剤耐性非小細胞性肺癌株における放射線による多剤耐性性能の経時変化」

医学会奨励賞を受賞でき、感謝の気持ちでいっぱいです。大学院へ進学し、初学者の私は基礎医学や研究は不安と困難の連続でしたが、先輩、後輩、同僚に支えられ今回の論文を形作ることができました。非常にシンプルな論文ですが皆に支えられてきた大事な論文です。この受賞はただ指導医の先生に恵まれたおかげですが、私のように不安と困難を感じている若手に少しでも響けば幸いです。最後に本研究が遂行できた事、この場をお借りして放射線科学講座の澤田敏前教授、谷川昇教授に厚く御礼申し上げます。

2016年4月～6月、本学が主催および事務局を務めた学会、同期間中の学会賞受賞者を紹介します。

## 学会主催報告

# 第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会

■会期 2016年6月2日～3日 ■場所 グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場) ■テーマ 臥龍鳳雛

本学会は、主題・教育セッション全体の93%を英語セッションとして設定いたしました。特別演題235題、U-40セッション42題、ビデオ227題、要望ポスター235題、一般ポスター681題を合わせまして全1,420題と多数のご応募を賜りました。当日は、2,180名の参加となり、中でも米国、欧州、ロシア、トルコ、インド、中国、韓国、台湾、他のアジア諸国から外国人170名と多数の先生方にご参加いただき、国際色豊かな学会となりました。

【第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会会長/外科学講座 権 雅憲】



## 学会賞受賞情報

### 第115回日本皮膚科学会総会

#### 最優秀演題賞

医学部6学年 松本 直也さん

矢島 綾子さん

医学部4学年 毛利 響香さん

■テーマ サルコイドーシスにおけるsIL-2R測定の意義

■授与学会 第115回日本皮膚科学会総会



### 第112回日本精神神経学会学術総会

#### PCN Reviewer Award

精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教

精神神経科学講座 嶺北 佳輝 助教

■授与学会 日本精神神経学会



### 第31回日本老年精神医学会

#### 奨励賞

精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教

■テーマ 正常圧水頭症患者におけるシャント術結果と髄液排除試験前後の律動活動の関連について

■授与学会 日本老年精神医学会



### 2016 Tsudomu Sugahara Award The 12th International Congress of Hyperthermic Oncology

放射線科学講座 播磨 洋子 非常勤講師

■テーマ Randomized clinical trials and predictive cancer related genes in patients with locally advanced cervical cancer for effectiveness of hyperthermia oncology

■授与学会 The 12th International Congress of Hyperthermic Oncology



### 公益社団法人日本超音波医学会 第17回奨励賞

腎泌尿器外科学講座 井上 貴昭 助教

■テーマ 大きな腎結石に対してWideband Doppler超音波ガイドに行った経皮経尿道的ミニ腎砕石術

■授与学会 公益社団法人日本超音波医学会





## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に平成28年4月1日～6月30日 ※判明分のみ)

健康科学教室 木村 稔 教授	朝日放送 「おはよう朝日です」 (4月5日)	「けさのクロズアップ」内の「突然死を読み解く」特集にVTR出演し、大阪・梅田で発生した突然死による交通事故を受けて、突然死の三大要因(心臓・脳・大動脈)と、その兆候について解説しました。また、予防のために、塩分摂取量のコントロールや適度な運動を心がけるようコメントしました。
小児科学講座 大橋 敦 講師	毎日新聞 (4月15日朝刊)	連載企画「母と乳」において、母乳不足が乳幼児の低血糖や高ナトリウム血症を引き起こした症例、および母乳不足が懸念される場合の医療機関の対応が取り上げられ、同症状の新生児を治療した経験について述べたコメントが掲載されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	「Tarzan 4/28号」 (4月7日発売)	特集「太る理由」に、監修記事「“食べてない……”のに太るワケ」が掲載されました。過食に陥る人の傾向を4つのタイプに分けて分析し、それぞれにあった対策を提案しています。
皮膚科学講座 岡本 祐之 教授	リビング京阪 (4月23日)	紫外線対策が取り上げられ、皮膚や発がんリスクに与える紫外線の影響を解説するとともに、具体的な日焼け対策についてもアドバイスしました。
総合医療センター	読売新聞 (5月1日朝刊)	新本館オープン、および附属滝井病院からの名称変更について紹介されました。また、医療設備や院内調剤を導入すること、今後リエゾン精神医療に注力することなどが取り上げられました。
総合医療センター	毎日新聞 (5月1日朝刊)	4/30(土)に総合医療センター新本館で開催されたマスコミ向け内覧会の様子が写真とともに紹介され、リニューアル事業や新本館の概要と、旧本館跡地に造成予定のホスピタルガーデンの活用に関する岩坂壽二病院長のコメントが掲載されました。
総合医療センター	毎日新聞 (5月7日朝刊)	5/6(金)新本館がオープンし、外来診療がスタートしたことが紹介されました。また、本院の名称が附属病院に変更されたことにも言及されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	朝日放送 「おはよう朝日です」 (5月10日)	「けさのクロズアップ」において「心臓の突然死」が取り上げられ、虚血性心不全と不整脈を中心に、その種類や生活習慣との関連性、危険な兆候などを解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	日本経済新聞 (5月14日朝刊)	「日経Gooday」掲載の企画「なぜあなたは痩せられないのか?」を基に再構成された、インタビュー記事が掲載されました。減量のコツとして、記録をつけて食べ過ぎや成果を可視化すること、家庭内やSNS上にダイエットの“応援団”を見つけることなどを挙げました。
健康科学教室 木村 稔 教授	TBS 「ひるおび!」 (5月16日)	「飛び出す新聞パン!」のコーナーにおいて、5/14(土)日本経済新聞朝刊に掲載されたインタビューに基づく記事が取り上げられました。
総合医療センター	薬事日報メディカル版 (5月18日)	旧附属滝井病院が総合医療センターへ名称を変更し、5/6(金)から新本館での外来診療をスタートさせたことが取り上げられました。また、ホスピタルガーデン完成に至るまでのリニューアル事業計画や、院内設備についても詳しく紹介されました。
整形外科講座 齋藤 貴徳 准教授	毎日新聞 (5月25日朝刊)	「きょうのセカンドオピニオン(ワイド版)」のコーナーにおいて「腰部脊柱管狭窄症」が取り上げられ、解説者として読者から寄せられた質問に回答しました。
小児科学講座 金子 一成 教授	西日本新聞 (5月25日朝刊)	熱中症予防と水分補給について取り上げた記事において、乳幼児の水分補給における経口補水液の有効性や、その摂取方法を解説しました。
関西医科大学	読売新聞 (5月25日朝刊)	骨伝導集音器を、岸和田市に寄贈したことが紹介されました。この機器は本学が民間企業と共同で開発したもので、市役所障害者支援課に設置されています。
外科学講座 山本 大悟 准教授	朝日放送 「おはようコールABC」 (6月10日)	乳がんと闘病中であることが公表されたフリーアナウンサーの病状に関する考察が紹介されました。また、「30代の乳がん検診にはマンモグラフィと超音波検査の併用が望ましい」とのコメントが放送されました。
関西医科大学	産経新聞 (6月22日朝刊)	本学が民間企業3社と協力して開発した骨伝導集音器を、枚方市に寄贈したことが報道されました。あわせて、鼓膜への負担が少ないという集音器の特徴と、市役所別館2階窓口で対応時に貸し出されていることが紹介されました。
総合医療センター	薬事日報 (6月27日)	総合医療センターが院内調剤へ移行したことが取り上げられ、岩坂壽二病院長と富田浩薬剤部長がその経緯や背景、目的などを説明しました。また、現在の運用状況や患者さんの反応のほか、総合医療センターの「お薬渡し窓口」が写真で紹介されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	テレビ東京 「ワールドビジネスサテライト」 (6月28日)	「治る!最前線」のコーナーにVTR出演し、近年症例が増えつつある「好酸球性副鼻腔炎」について、疾患の概要と最新の治療法を紹介しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

誌面スペースの都合でご紹介できなかった情報を一つ。本学の附属医療機関のウェブサイトが続々と新しくなっています。12月に新しいページが公開された総合医療センターに続き、4月には附属病院、香里病院のリニューアルが完了しました。それぞれのイメージカラーを基調とし、見やすく、必要な情報を探しやすいサイトとなることを目指して制作されています。「病気の豆知識」(附属病院)など新しいコンテンツも追加されています。ぜひ、一度のぞいてみてください。(こ)

## 関西医科大学広報 Vol.34

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成28年7月30日(土)発行